

令和5年度 授業創造プラン

6年

教科	児童の実態（Gテストを含む）	具体的な取組【評価の観点】
国語科	- 全国学力調査の結果、国語科全体の正答率の平均は、全国、東京都の平均正答率を上回っている。（本校…71%、東京都…69%、全国…67.2%） - 情報の扱い方に関する事項の「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」問題では、東京都や全国の平均正答率を下回った。（本校…44%、東京都…64.8%、全国…62%） - 話すこと・聞くことの「必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる」問題では、東京都や全国の平均正答率を下回った。（本校…72%、東京都…75.4%、全国…73.6%）	「みんなで楽しく過ごすために」の単元で、目的や条件に合わせて、クロームブックなどを使って必要な情報を集めたり整理したりして、主張や理由、根拠をはっきりさせて自分の考えを伝えられるようにする。 「みんなで楽しく過ごすために」の単元で、相手の主張の意図や理由・根拠についての疑問点を質問する時間を設定し、目的や条件に沿った話し合いができるようにする。
算数科	- 全国学力調査の結果、算数科全体の正答率は、全国平均を上回ったものの、東京都の平均より下回った。（本校…64%、東京都…67%、全国…62.5%） - 変化と関係の「比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、東京都や全国の平均正答率を下回った。（本校…48%、東京都…61.7%、全国…55.5%） - 図形の「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、東京都や全国の平均正答率を下回った。（本校…14%、東京都…29.5%、全国…20.8%） - 数と計算の「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる」問題では、東京都や全国の平均正答率を下回った。（本校…66%、東京都…75%、全国…72.4%）	「比例と反比例」の単元で、比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いるとともに、対話を通して言葉での説明の仕方について深めていく。 「角柱と円柱の体積」の単元で、角柱や円柱、直方体を組み合わせた形の体積は、底面積×高さで求められることを、自分の考え方で説明することができるようにする。 「算数のしあげ」の単元で、これまで学習した四則計算について復習するとともに、クロームブックでミライシードなどを活用し、理解を深め、技能の定着を目指す。